

[03_04]九州大学大型計算機センター広報 : 3(4)

<https://doi.org/10.15017/1467969>

出版情報 : 九州大学大型計算機センター広報. 3 (4), pp.1-56, 1970-08-26. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :

ファイルの話 (3)

共用ボリューム上の私用ファイルの利用方法

はじめに

すでにセンターニュース№2で御存知と思いますが、6月22日より磁気ディスク装置の一部を共用ボリュームとして相対形式プログラム、実行形式プログラムの登録利用のためにテストの意味で開放しています。本号ではこの利用方法について解説します。(ソースプログラム、データの登録利用は現在ファイル装置不足のため標準ジョブでは許していません。今後のセンターニュース、広報に注意してください。)

共用ボリュームにファイルを作成し保持しておく事により、次の利点が生れてきます。

相対形式プログラムでは

- イ デバッグ中のプログラム単位のみカード入力すればよい。
- ロ 他の人が作成したプログラムを利用できる。

実行形式プログラムでは

- イ データを与えるだけで実行ができる。

本号の解説を次のようにしてお読みください。

- 自分のファイルを作成して簡単な手続きで即座に利用したい方
 - 相対形式プログラムの場合 2, 3, 4, 5
 - 実行形式プログラムの場合 2, 3, 4, 6
- 内容をよく理解した上で近い将来自分のファイルを作成し簡単な手続きで利用したいと思っている方 1, 2, 3, 4, 5, 6
- かなり疑った利用法を考えている方 全部(特に7, 8)

1 内容をよく理解するために

先ずこの解説をよく理解して頂くために、以後使用する語句の説明、ファイルについて他で解説している資料、マニュアル類の列挙、ファイルを中心にしたバッチジョブの流れの図示などをします。

- ① 資料
 - a 当センター広報 Vol. 2 No. 4 「ファイルの話」「ALGOLの副プログラム」
 - b 利用の手引「6 計算依頼カードデッキの構成法とコントロールカード」
 - a, bは必ずよく読んでください。
 - c FORTRAN解説編(II)「10. コンパイラへの指示, 12. JOB制御言語」

d ALGOL解説編「14. 制御データ, 16. ジョブ制御文」

e LIED文法編

② 語句の意味

イ RB 相対形式プログラム(a, b参照 aではR.B.と略記しました。)

ロ EB 実行形式プログラム(a, b参照 aではE.B.と略記しました。)

ハ コンパイラ 翻訳プログラム(例 FORTRAN言語で書かれたプログラムの翻訳プログラムはFORTRANコンパイラと言います。)

ニ LIED 結合編集プログラム(RBからEBを作り出すプログラム)

ホ 登録 ボリューム上にファイルを創成する事(ファイルを一度消去した直後のファイルの作成も含む)

ヘ 追加 創成後のファイルにRBやEBをつけ加えること。

ト 削除 ファイル中のあるRB, EBを取り除くこと。

チ 消去 ファイルそのものをボリューム上から取り去ること。

リ エLEMENT プログラム単位(c「10. コンパイラへの指示」, d「14. 制御データ」

ELEMENTの個所参照)

例) FORTRANの場合

ELEMENT文でつけた名前が優先しますが省略した時には

主プログラム PRG.MAIN

サブルーチン副プログラム サブルーチン名

関数副プログラム 関数名

ヌ ファイル名 ボリューム上のファイルを identify するためにつけられた物理的(実際上の)名前(FLNAMEで与えます)

ル ファイル定義名 ファイルにつける論理的(プログラム上の)名前で、この名前をキイにして実際のファイル名との対応関係が確立されます。

例) 次のファイル定義名は右のファイル定義名です。

RELBIN コンパイラがファイルの作り出したRBを入れるファイル
SYSLIB FORTRAN, ALGOLなどのライブラリが入っているファイル

SSLIB SSLの入っているファイル

QU.RBFILE RBを作成する利用者私用ファイル

注) 疑った使い方をする人のために、LIEDの制御文 SELECT

RELBIN1, RELBIN2, ...のようにオペランドがファイル定義名ですが、ファイル名とファイル定義名の対応関係はジョブ制御文FD文

で与えなければなりません。センターではこの対応関係を示すジョブ制御マクロとして \$FLDEFINE を用意していますので、これを使用してください。

フ セグメント名 LIED制御文 SGM T文で与える。

セグメントとはローディング(大記憶→主記憶へEBを移し配置すること)の単位です。(資料e参照)

③ ジョブの流れ(ファイルを中心として一バッチジョブ) ①の a, b参照

(特に①の a の計算機システムとファイルの説明参照)

私用ファイルも含めて

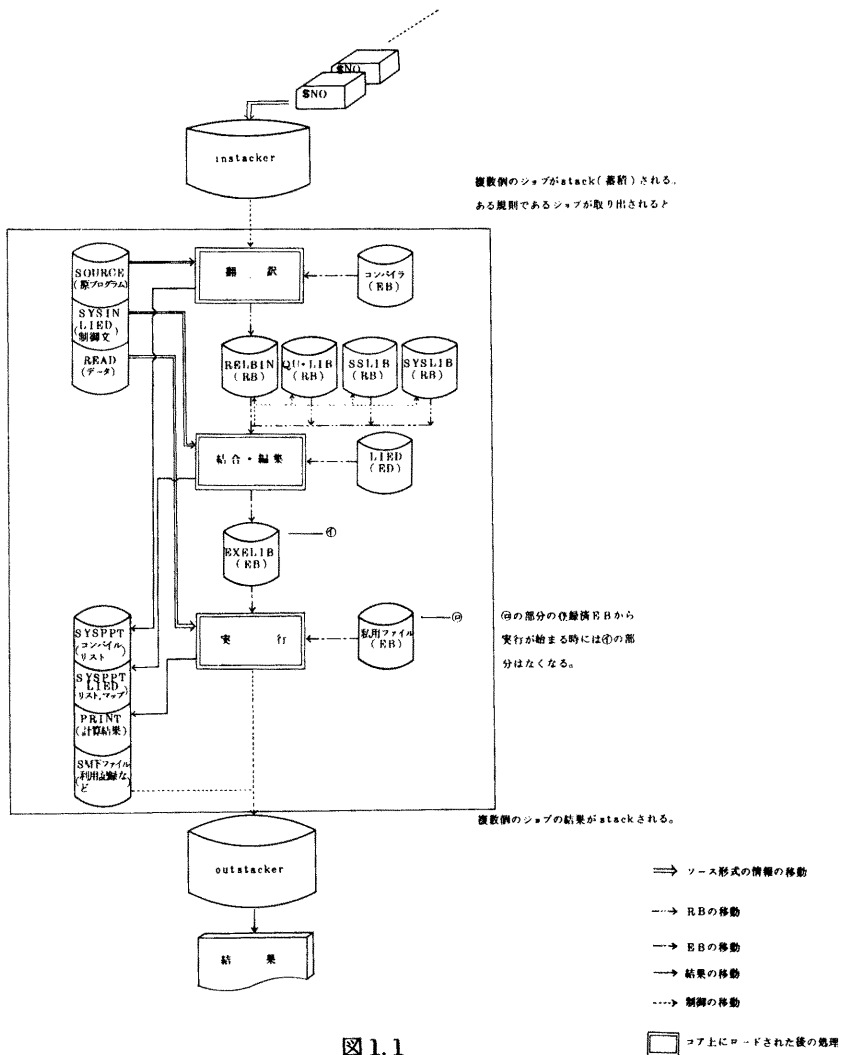


図 1.1

2 利用に際して注意すること

- ① ファイルの個数 1コ (RBかEB) / 利用者あるいはグループ 制限 1
- ② ファイルの大きさ $\begin{matrix} RB \\ EB \end{matrix} \begin{matrix} 60 \\ 40 \end{matrix}$ } トラック / 利用者 制限 2
- RBかEB 200トラック / グループ

注)

- トラック数はカード枚数との換算表参照
- 利用者 1課題番号(複数個持っている時にはその中の1つに対して)
- グループ 大学, 部局, 学科, 教室単位
- 利用者とグループの兼用はできない。

- ③ 登録個数 利用者 - 40, グループ - 10 制限 3

- ④ 登録の認可 利用者 - 先着順を原則としますが申込み多数の場合はグループと同じ基準でセンターが決定します。 制限 4

グループ 登録するカード枚数, センター利用状況
センターとの距離が認可基準です。

- ⑤ 申込み 利用者 センター第2受付に申し込んでください。余裕があり次第その日より利用可能です。

グループ 前もってセンター第2受付(九大内)か共同利用掛(九大外)に申し込んでください。余裕があってもすぐには認可できないこともあります。

- ⑥ 保存期間 九大内利用者 認可日より40日 制限 5

九大外利用者 } 認可日より2ヶ月
グループ }

- ⑦ 依頼できるジョブとの関係 制限 6

ジョブ種別 依頼内容	A	B	C	D
登録	×	○	○	○
追加	×	○	○	○
削除・消去	×	○	○	○
実行	○	○	○	○

○ - できる

× - できない

- ⑧ 障害処置 ファイルを処理したジョブでトラブルが発生し、ファイルの内容がこわれた場合は、再登録を行なってください。(当分の間)

磁気ディスク全体にトラブルが生じた場合には登録されている利用者に即座に連絡します。

- ⑨ 資料提出 実際の利用者からあがってきた障害の内容を検討して本格的な開放までにはファイルのプロテクト、リカバリに対する最善策を講じるつもりです。そのための資料の提出をお願いすることがあるかも知れません。 制限 8

⑩ ファイル名の与え方

英数字と・(ピリオド)からなる18文字以内の文字列(ただし・と・の間の文字数は8文字までです。) 制限 9

利用者の場合下位5文字は当該課題番号下5桁を必ず使用してください。

制限 10

グループの場合も利用者の場合同様代表者の課題番号を使用してください。

例) 利用者 KUMADAI.00500 グループ N.UNIV.GROUP.00400

(実際のファイル名は、RBの場合QU.RB. EBの場合QU.EB. が頭につきます。

特殊ジョブ利用者は注意してください。)

- ⑪ 換算表(FORTRAN の場合の目安にしてください。SSL等使用した場合にはその分だけトラック数が増えるのは言うまでもありません。)

ソースカード枚数(枚)	500	1000	1500	2000	2500	3000	3500	4000	5000	1000枚増加ごと
RB(トラック数)	11	18	26	33	41	48	56	63	78	+15
EB(トラック数)	13	18	21	24	28	32	35	39	47	+ 8

注) 上記の制限1~10の他に制限が追加されること、制限のなくなるものもありますので、今後のセンターニュース、広報に注意してください。

3 ファイルの登録、追加、削除、消去を行なう際の注意

- ① RB, EBの登録、追加はカード枚数とトラック数換算表で目安を立て、制限の大きさの範囲で行なってください。

大きさの制限を越えると

・ out側の領域が足りない

・ write error などのエラーが発生するはずで。

- ② 登録、追加後の使用トラック数

登録、追加が支障なく行なわれると現在使用しているトラック数が次のような形で印刷されます。

```

CONTROL CARD AND ERROR MESSAGE LIST
EDIT(,SL) DD...
FIN
=* = .....        .....SIYOO SARETA TRACK SUUWA nnn TRACK DESU =* =

```

③ 正常終了, 異常終了

コンパイル, L I E D時を含めて完了コードが470 未満の時のみファイルの登録, 追加, 削除, 消去ができたこととなります。

470 以上の時は異常終了ですので, ファイルの制限以内かどうか調べて, 原因のつかめない時には速やかにプログラム指導員の方か, センタープログラム指導担当者まで連絡してください。

また異常終了の時はハードウェアの場合もあり, その場合にはディスク上のすべてが読めなくなりますので早目に連絡してください。

例えば次のようなエラーがでることがあります。

- LIBE SYSTEMでは理解できないエラーが発生した。

4 コントロールカード(詳しくは 8 ジョブ制御マクロを参照してください。また資料bも合わせて参照してください。)

イ RBについて

パラメータ

注)

① 登録	\$RBCATLOG	FLNAME=ファイル名	ELMNAME=(エレメント名, ...) , or DELMNAME=(エレメント名, ...) (③にはできない。)
② 追加	\$RBAPPEND	FLNAME=ファイル名	
③ 削除・消去	\$RBDELETE	FLNAME=ファイル名	
④ エレメント名の印刷	\$DRTYLIST	FLNAME=ファイル名, TYPE= RB	
⑤ 結合・実行	\$RBLINKGO	FLNAME=ファイル名	{, MAINPROGRAM=FILE} {, COMPIL=NO}

ロ EBについて

注)

① 登録	\$EBCATLOG	FLNAME=ファイル名	EBNAME=(実行形式プログラム名, ...) , or DEBNAME=(実行形式プログラム名, ...) (③にはできない。)
② 追加	\$EBAPPEND	FLNAME=ファイル名	
③ 削除・消去	\$EBDELETE	FLNAME=ファイル名	
④ プログラム名の印刷	\$DRTYLIST	FLNAME=ファイル名, TYPE= EB	
⑤ 結合	\$LIED		
⑥ 実行	\$RUN	FLNAME=ファイル名	

注)

- \$LIEDを除きすべてにファイル名の指定を必ずしてください。

(ファイル名のつけ方は2-⑩を参照)

- RB, EBの①~③のみ選択のパラメータがつきます。

選択パラメータがない場合-①は全内容登録 ②全内容追加 ③ファイル消去となります。

ELMNAME, EBNAMEがある場合-指定したものが登録, 追加等の対象エレメントとなります。

DELMNAME, DEBNAMEがある場合-指定したものが登録, 追加等の対象外のエレメントとなります。

- MAINPROGRAMの指定は 主プログラムがファイルにある時に必ず指定してください。
- COMPILER=NO コンパイラがなく、結合からジョブを始める時指定してください。

(例) `$RBCATLOG FLNAME=A.00001,ELMNAME=(A,B,C)`
 A,B,Cのエレメントを登録

`$RBCATLOG FLNAME=A.00001,DELMNAME=(A,B,C)`
 A,B,Cを除いて登録

`$RBDELETE FLNAME=A.00001` ファイル消去

`$RBDELETE FLNAME=A.00001,DELMNAME=(A,B,C)`
 A,B,Cがファイルから削除される。

5 RBファイルの簡単な利用例

- 簡単なおう事は (1) 自分のファイルだけを利用してジョブを実行する。
 (2) デバッグ中のエレメントはカード入力、完成済のエレメントはファイルに作成して利用する。
 2つの事を想定しています。(1)(2)以外の利用法は7を参照してください。

- ① 必要なコントロールカード 4のイの①～⑤です。
 ② プログラムの例

	FORTRAN	ALGOL
主プログラム	<pre> : CALL SUB1 : CALL SUB2 : STOP END </pre>	<pre> MAIN; EXTERNAL:=PROCEDURE SUB1, SUB2,SUB3,SUB4, SUB5, begin SUB1; SUB2; end </pre>
副プログラム SUB1	<pre> SUBROUTINE SUB1 : CALL SUB3 CALL SUB4 RETURN END </pre>	<pre> SUB; ELEMENT:=SUB1; GLOBAL:=SUB1; begin SUB3; SUB4; end </pre>
SUB2	<pre> SUBROUTINE SUB2 : RETURN END </pre>	<pre> SUB; ELEMENT:=SUB2; GLOBAL:=SUB2 begin end </pre>

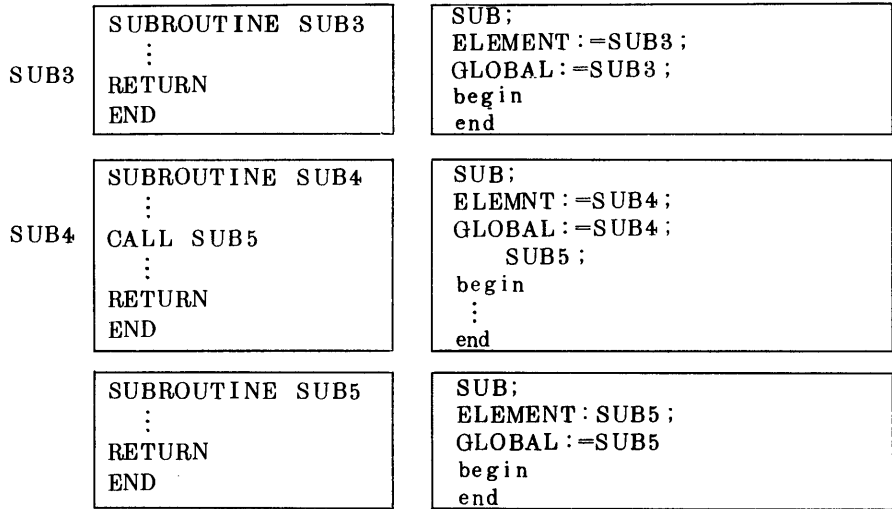


図 5.1

図 5.2

図 5.1 , 5.2 のプログラムを構造的に次のような表現をします。

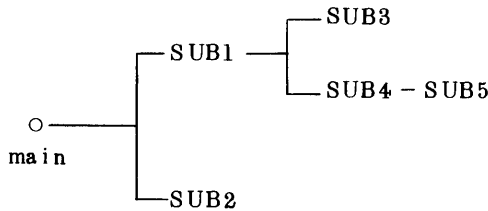


図 5.3

③ \$RB LINKGO の中での LIED がエレメントを組み込む方法

1) \$RB LINKGO FLNAME = ファイル名の場合

イ RELBIN ファイル中に RB が存在しなければ処理終了 (図 1.1 参照)

ロ RELBIN ファイルに RB が存在すれば、この RB を組み込みます。その時 RELBIN の RB だけでは値の定まらない外部記号 (例えば SSL を呼び出している場合など) がある場合は LIED は QU. RBFILE → SSLIB → SYSLIB の順序で捜して^{注)}そのエレメントを自動的に組み込みます。(自動コールと言います。)組み込んだエレメントがさらに他のエレメントをコールしている場合も同様です。

注) ない場合には未定義記号でエラーとなります。

2) \$RB LINKGO FLNAME = ファイル名 [, MAINPROGRAM = FILE] [, COMPILE = NO] の場合

a MAINPROGRAM = FILE のパラメータがある場合

イ QU.RBFILEの中から指定された実行開始プログラム(STARTPROGRAM=のパラメータによる。省略時…PRG.MAINとなる。)を主プログラムとして先ず組み込む。

ロ RELBIN ファイル中のRBを組み込みます。

ハイ,ロで値が定まらない外部記号があればQU.RBFILE→SSLIBの順序でファイル探しそのエレメントを組み込む。

b MAINPROGRAM=FILE, COMPILER=NOのパラメータがある場合

aのロの処理がなくなります。つまりソースプログラムのコンパイルが全然なくファイル上のRBのみでジョブの実行をする時に使います。

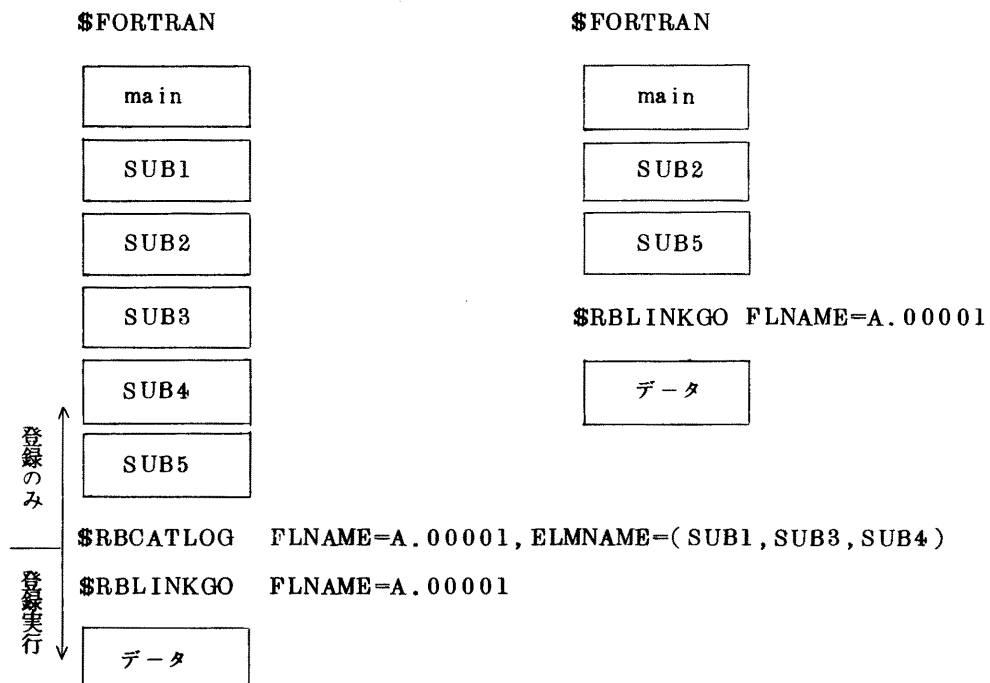
注) ソースプログラムをコンパイルしてできたRBのエレメント名と既にRBとしてファイル上に存在するエレメントの名前が同一の時には新たにコンパイルして出来たエレメントの方が優先する事は上のLIEDの処理方法から分ると思います。

④ 利用例(図 5.1, 5.3, 5.4を参照, 例には\$NO, \$QJOB, \$JENDは省略します。)

イ main, SUB2, SUB5 がデバック中

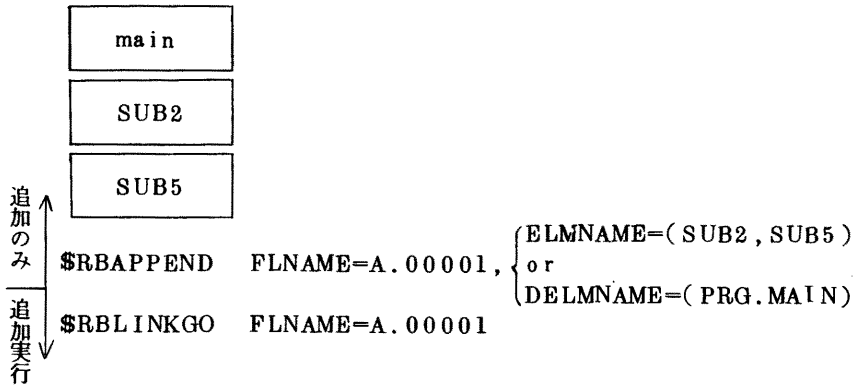
SUB1, SUB3, SUB4 をファイル名A.00001で登録

ロ (イ)で登録したものを利用してのジョブラン



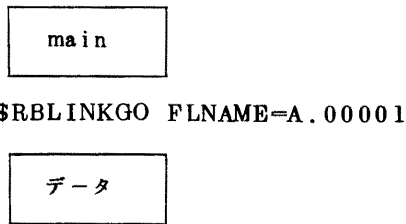
ハ (ロ)によりSUB2, SUB5のデバッグが完了ファイルに入れたい場合

\$FORTRAN



ニ (ハ)で出来たファイルを利用する場合

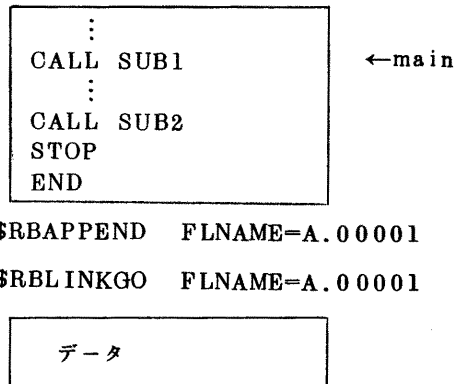
\$FORTRAN



ホ (ニ)によりmainも完成しファイルに作成する場合

5-④-ハよりサブプログラム化

\$FORTRAN



へ (ホ) により完成したプログラム利用

```
$FORTRAN
$RBLINKGO FLNAME=A.00001,COMPILE=NO
```

データ

ト データを変えながらチェック中SUB1にエラーが見つかりしだいチェックしたい時

```
$FORTRAN
```

SUB1

←これだけカード入力するだけでよい。
(5-④-ニより)

```
$RBLINKGO FLNAME=A.00001,MAINPROGRAM=FILE
```

データ

チ SUB1をすでにファイルにあるものと置き換えたい時

```
$RBDELETE FLNAME=A.00001,ELMNAME=(SUB1)-SUB1削除
```

```
$FORTRAN
```

SUB1

```
$RBAPPEND FLNAME=A.00001,ELMNAME=(SUB1)
```

```
$RBLINKGO FLNAME=A.00001,MAINPROGRAM=FILE
```

データ

リ 現在のファイルの中身(どんなエレメントが入っているか)を知りたい時

```
$DRTYLIST FLNAME=A.00001,TYPE=RB
```

ヌ ファイルの消去

```
$RBDELETE FLNAME=A.00001
```

以上イ〜までの例を示しました。他人のファイルも利用したい、主プログラムをたくさんファイルに入れておき副プログラムをデバックしたい等の方は7を御覧ください。

6 EBファイルの簡単な利用例

① 必要なコントロールカード 4 - ロ - ① ~ ⑥

② プログラムの例

次の完成したプログラムをコンパイル→LIED後登録して、以後\$RUNでデータを変えながら実行させたい。

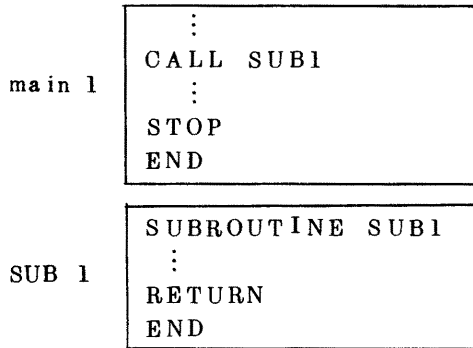
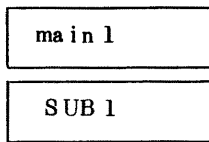


図6.1

③ 利用例

イ 図6.1の登録

\$FORTRAN



\$LIED MAP

SGMT SGMTPRGM

SELECT RELBIN

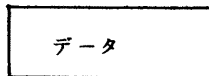
} この通りに

FIN

\$EBCATLOG FLNAME=B.00010

\$RUN FLNAME=B.00010

登録のみ
↑
登録後実行
↓



これにより実行形式プログラムはEXQTPRGMという名で登録されています。

ロ (イ) で作成したEBの実行

```
$RUN FLNAME=B.00010, MACROSTEP=1
```

```
データ1
```

———— (1)

```
$RUN FLNAME=B.00010, MACROSTEP=2
```

```
データ2
```

———— (2)

```
$RUN FLNAME=B.00010, MACROSTEP=3
```

```
データ3
```

———— (3)

注) MACROSTEPは、ロの例のように\$RUN続けて書く時、異った名前をつけてください。

7 RB, EBファイルの凝った利用法

- ① ジョブ制御マクロは8の一覧表を利用してください。
- ② 他の利用者のファイルを利用する場合(資料1-①-e参照)

イ プログラムの構造

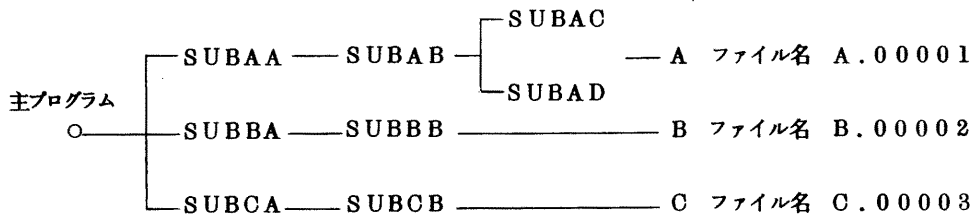


図 7.1

A, B, Cのファイル定義名をそれぞれRELBINA, RELBINB, RELBINCとします。

ロ A, B, Cのエレメントをすべて組み込んでの実行例

SELECT ファイル定義名, …… とする。—ファイル中の全RBを組み込むLIEDの制御文

```
$FORTRAN
```

```
CALL SUBAA
CALL SUBBA
CALL SUBCA
STOP
END
```

```

$ LIED MAP _____ a
SGMT SGMABC _____ b
SELECT RELBIN _____ c
SELECT RELBINA, RELBINB, BELBINC -d
FIN _____ e

```

```
$ FLDEFINE FDNAME=RELBINA, FLNAME=A.00001-f
```

b はセグメント名を書きます。セグメント名は 8 文字以内の英数字列で頭文字は英字で始まるもの。

c は必ずこの通りに書いてください。

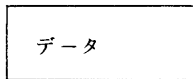
d で指定したファイル定義名はファイル名との対応関係を f, g, h で示すように必ず

\$FLDEFINE で指定してください。

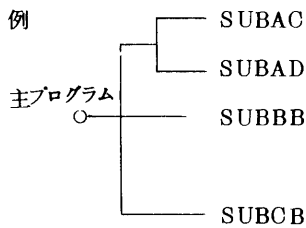
```
$ FLDEFINE FDNAME=RELBINB, FLNAME=B.00002 _____ g
```

```
$ FLDEFINE FDNAME=RELBINC, FLNAME=C.00003 _____ h
```

```
$ RUN _____ i
```



ハ ファイルA 中のエレメント SUBAC, SUBAD, B から SUBBB, C から SUBCB を組み込んでの実行



SELECT ファイル定義名(エレメント名, …), …とする

LIED の制御文

図 7.2

```
$ FORTRAN
```

```

CALL SUBAC
CALL SUBAD
CALL SUBBB
CALL SUBCB
STOP
END

```

```
$ LIED MAP _____ a
```

```
SGMT ABC _____ b
```

```

SELECT RELBIN _____ c
SELECT RELBINA(SUBAC, SUBAD), RELBINB(SUBBB), RELBINC(SUBCB) — d
FIN _____ e
$FLDEFINE FDNAME=RELBINA, FLNAME=A.00001 _____ f
$FLDEFINE FDNAME=RELBINB, FLNAME=B.00002 _____ g
$FLDEFINE FDNAME=RELBINC, FLNAME=C.00003 _____ h
$RUN _____ i

```

データ

ニ ファイル A の特定のエレメント SUBAA, SUBAB, SUBAC, C の SUBCA, 組み
SUBCB を組み込みたくない場合。

```

LIED 制御文 { SELECT ファイル定義名, ...
              { DELETE ファイル定義名(組み込みたくないエレメント, ...)

```

```

$FORTRAN

```

```

CALL SUBAD
CALL SUBCB
STOP
END

```

```

$LIED MAP _____ a
SGMT AC _____ b
SELECT RELBIN _____ c
SELECT RELBINA, RELBINC _____ d
DELETE RELBINA(SUBAA, SUBAB, SUBAC), RELBINC(SUBCA) _____ e
FIN _____ f
$FLDEFINE FDNAME=BELBINA, FLNAME=A.00001 _____ g
$FLDEFINE FDNAME=RELBINC, FLNAME=C.00003 _____ h
$RUN _____ i

```

データ

(ロ), (ハ), (ニ) を EB として登録, 追加等を行なう場合

ホ (ロ) を登録実行するには

a の代わりに \$LIED MAP, EBNAME=AAA

h と i の中に \$EBCATLOG FLNAME=D.00200 を挿入すればいい

i の代りに \$RUN FLNAME=D.00200,EBNAME=AAA

注) EBNAME=実行形式プログラム名 の指定は同じEB名を持つEBを追加する事は
できないからです。

同じEBNAMEを指定しないとけません。

へ (ハ)をEBとして追加実行するには

a の代りに \$LIED MAP,EBNAME=XXX

h と i の間に \$EBAPPEND FLNAME=D.00200

i の代りに \$RUN FLNAME=D.00200,EBNAME=XXX

ト (ホ)と(へ)でファイルに入れたEBを利用するには

\$RUN FLNAME=D.00200,EBNAME=AAA,MACROSTEP=1

データ 1

\$RUN FLNAME=D.00200,EBNAME=AAA,MACROSTEP=2,COND=*

データ 2

\$RUN FLNAME=D.00200,EBNAME=XXX,MACROSTEP=3,COND=*

データ

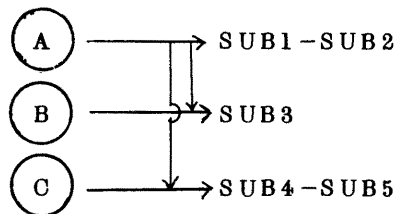
⋮

とすればいい。

③ 任意の主プログラムと任意の副プログラムの組み合わせの登録,実行

イ プログラムの構造

主プログラム群 副プログラム群



ロ 主プログラムはELEMENT 文によって名前を変えます。

ハ (イ)の登録

\$FORTRAN

```
ELEMENT A
CALL SUB1
CALL SUB2
CALL SUB4
STOP
END
```

```
ELEMENT B
CALL SUB3
STOP
END
```

```
ELEMENT C
CALL SUB4
CALL SUB5
STOP
END
```

```
SUB1
```

```
SUB2
```

```
SUB3
```

```
SUB4
```

```
SUB5
```

\$RBCATALOG FLNAME=A.00001

= Aの系列の結合実行(6-②-ハ以下参照)

\$RBLINKGO MAP STARTPROGRAM=A,
COMPILE=NO, FLNAME=A.00001

注) STARTPROGRAM= は実行開始エレメン
ト名を指定する。

Bの系列の実行の場
合は

STARTPROGRAM=B

ホ EBの登録, 追加は(6-②を参照して
下さい。)

8 ジョブ制御マクロ一覧表

① RBファイル処理マクロ

内容	マクロ名	パラメータ	指定	意味
登録	\$RBCATALOG	FLNAME=ファイル名 _____ (イ)	(イ)	全内容追加
		[,ELMNAME=(エレメント名,...)]-(ロ)	(イ)(ロ)	あるエレメント登録
		[,DELMNAME=(エレメント名,...)]-(ハ)	(イ)(ハ)	あるエレメントを除いて登録
追加	\$RBAPPEND	FLNAME=ファイル名 _____ (イ)	(イ)	全内容追加
		[,ELMNAME=(エレメント名,...)]-(ロ)	(イ)(ロ)	あるエレメント追加
		[,DELMNAME=(エレメント名,...)]-(ハ)	(イ)(ハ)	あるエレメントを除いて追加

内容	マクロ名	パラメータ	指定	意味
削除 除去	\$RBDELETE	FLNAME=ファイル名 (イ) [,ELMNAME=(エレメント名,...)] (ロ)	(イ) (イ)(ロ)	ファイルの消去 あるエレメント削除
ファイル 定義	\$FLDEFINE	^{注)} FDNAME=ファイル定義名, FLNAME=ファイル名		ファイルの定義

② E Bファイル処理マクロ

内容	マクロ名	パラメータ	指定	意味
登録	\$EBCATLOG	FLNAME=ファイル名 (イ) [,EBNAME=(実行形式プログラム,...)] (ロ) [,DEBNAME=(実行形式プログラム,...)] (イ)(ロ)	(イ) (イ)(ロ) (イ)(ロ)	全内容登録 ある実行形式プログラム登録 ある実行形式プログラムを除いて登録
追加	\$EBAPPEND	FLNAME=ファイル名 (イ) [,EBNAME=(実行形式プログラム名,...)] (ロ) [,DEBNAME=(実行形式プログラム名,...)] (イ)(ロ)	(イ) (イ)(ロ) (イ)(ロ)	全内容追加 ある実行形式プログラム追加 ある実行形式プログラムを除いて追加
削除 除去	\$EBDELETE	FLNAME=ファイル名 (イ) [,EBNAME=(実行形式プログラム,...)] (ロ)	(イ) (イ)(ロ)	ファイル消去 ある実行形式プログラム削除

③ R B, E Bファイル共通

内容	マクロ名	パラメータ
ディレクトリ の印刷	\$DRTYLIST	FLNAME=ファイル名, TYPE = $\begin{cases} RB \\ EB \end{cases}$ ←省略した場合
結合	\$LIED	(NOLIST)(,MAP)(,STARTPROGRAM=実行開始エレメント名) (,EBNAME=実行形式プログラム名)
実行	\$RUN	(ERR=n)(,FLNAME=ファイル名)(,EBNAME=実行形式プログラム名) (,MACROSTEP=ステップ名) (,LP=打ち切りページ数)(,TIME=打ち切り時間(SEC))
結合 実行	\$RBLINKGO	(NOLIST)(,MAP)(,ERR=n)(,STARTPROGRAM=実行開始エレメント名) (,FLNAME=ファイル名)(,EBNAME=実行形式プログラム名) (,MAINPROGRAM=FILE)(,COMPILE=NO注)

注) MAINPROGRAM=FILE 主プログラムもRBとしてFILEにある時指定してください。
COMPILE=NO ソースカードのコンパイルがなくてFILEのRBを結合後実行する時に指定してください。

- 注) 1 …名とつくものはファイル名を除いてすべて8文字以内の英数字列(頭文字は英字)
- 2 EXQTNAME=ステップ名 \$RUNが2コ以上続く時異った名前をつけてください。
- 3 LP = m このジョブステップのLP枚数をm枚で打ち切ります。
- 4 TIME=m' このジョブステップをm' 秒で打ち切ります。(FORTRANのみ)
- 5 CORE=m''k 実行時のプログラムの大きさを指定してください。
指定がない時にはCORE=32kとなる。

利用者の声

本センターで営業を開始して早くも3ヶ月を経過しました。その間仮設センターとの利用方法の違い等が生じ、利用者の中にも混乱された方も多いかと思います。質問、苦情などを計算受付の窓やプログラム相談室にお寄せになった方もあったようです。またセンターの投書箱や利用者の声欄への投稿もありました。次にお寄せいただいた質問、苦情とともにセンターの回答を掲載いたします。

1 カードデッキ保管棚について

九大外の利用者の中から、カードをかついで、九大まで往復するのが大変なため、保管棚の使用期限を3ヶ月位に延長してもらいたい。また出来れば、連絡所単位で共同使用できるような保管棚を滞在者控室に備えてもらいたいとの希望が西利協あてに出ています。15日ごとに申請書を出し直せばよいということは十分ご承知の上でのご希望のようです。(西利協事務局 大槻説乎)

◎ 一般利用者に対するカードデッキ保管棚としては、すでに2階オープンパンチ室の横に仮設していますが、出張利用者には別に滞在者控室に棚を設置することを計画し、使用期限は3ヶ月以上とするよう準備を進めています。なおデータは、私用ボリュームで、プログラムは、共用ボリューム、私用ファイルでセンターに登録しておかれると便利です。(共同利用掛)

2 ラインプリンタの仕分情報について

現在は右図のような仕分情報が出力されているが更に次のような工夫を加えてほしい。

出力結果は、返却箱に2つ折りにして置かれているが、折りたたみかたによって受付番号が見えたり、課題番号が見えたりまちまちである。

0 1 3 0 0 2
7001B00999

利用者としては、その両方を一度に知ることができれば都合がよい。

また可能ならばジョブ種別、計算終了時刻も明示してもらえば自分のジョブの出来上り時間を予測